

Evidentiary Document DOC 5788

日本、戦争犯罪及び「シヤ」「バド」「エル・オーギー」「ランドソグ」  
収容所ニ於ケル惨状を述べたる事項

口供書

余、本籍地「シヤ」「バド」「エル・オーギー」「ランドソグ」ニ在リ、王國陸軍醫隊ノ「シ」  
「エル・ス・アヤ」中佐ハ宣誓シ、上ニ述ビ陳述ス。

一、余ハ一九四三年二月八日日本軍ノ惨状より「シヤ」「バド」「エル・オーギー」  
病院ニ居タ後遂ニ一九四五年五月ニ「シヤ」「バド」「エル・オーギー」  
「ランドソグ」収容所ニ移サタ。此ノ収容所ニ於ケル般事情ハ主として  
全ク話メテ居タ爲概シテ甚ク要カタ。此ノ収容所ハ元ハ百  
五十名ノ少年ヲ收容スル様ニ建テラタ少年感化院アリタ。私が此ノ  
収容所ニ三週同程居タ後此ノ収容所ニハ四千名以上ノ惨状が惨状  
サシ居タ。勿論衛生設備ハ全ク不十分デ水ノ供給モ又不足デタ。

二、食物ハ不十分アリ、時が経ツニ従ツテ次第ニ供給サレル量ガ減ツテ行ツ  
タ。當時日本軍ニトシモ食糧ノ供給ハヨリ困難デ「バド」が状々ガ異フ  
事ヲ許サタ。時酒保ヲ通ジテ購入シ得タモノカヲ見テモ食糧ノ得ラ  
シ事ハ知ツタ。日本官憲ハ集団徴収制トシテ廣ク長期間酒保ヲ  
閉鎖シテシタ爲我々ハ酒保ヲ食糧ヲ買フコトハ度々許サシタ。

三、醫藥品ノ支給ハ「バド」不十分デ「バド」が其ノ事ヲ得テシ事ハ明カ  
デタ。日本軍ハ特ニ糖尿病患者ニ「バド」シテ支給スル事ヲ拒メ  
日本ノ降伏後「バド」シテ其ノ多量ノ醫藥品ガ収容所ニ持テ来  
タ。同其ノ上日本軍（現地ニ到着シタ赤十字社）醫藥品ヲ極ク少量ニカ  
ノ支給シテ受タ。降伏後赤十字社（支給品）ガ多量収容所内ニ持テ

NO

Doc 5788

No 2

此等之等(收容所)外ニシテアリタルハ收容所、外ニシテ直ニ  
クニ容易ニ使用之得ル病院ガアリタルニ病院、設備ハ至リテ不充テ  
アリ

此、收容所、修繕達(属)日本衛兵ニ打ツレ又非常ニ寒カ  
時ニモ拘ラズ半ズホシテ終夜外ニ膝マツカセラシメテ徴兵訓ヲ受  
タ。此、虐待ノ主ナル日本人責任者ハカシマシ伍長アリ。私ハ又此、伍  
長ハ

酒保カウ莫大ナ不法利得ヲ得テ居タト信ズル。或ル時船舶  
用エンジンニ熟練シタ智識ヲ有ツテ居ル修繕ノ名前ヲ要テシタ時、  
英人修繕ノ名前ヲツモ與ヘナカッタ。其ノ結果全修繕ノ整列サセラシ、  
又少征以上ノ將校ハ本森マサシ曹長立前ニ整列サセラシ彼ハ握拳デ  
彼等ヲ打ツ。私モ先任英國軍將校アリケダール空軍中佐モソノ中  
ニ含マレタタ。多ク、將校ハ意識ヲ失ツテ倒レタ。私ハ奥圍ヲ作リ  
タレアリケダール空軍中佐ハ頸骨ヲ折ラタ。カシマシ伍長ハ此殴打  
ハ加ヘナカッタが彼が曹長本森ニシタ侮ラタ報告ノ故ニ此殴打ノ  
責任ハ大部分ハ彼ニツタト私ハ信ツテタマフ。

私ハ一九四五年八月十五日ノ日本降伏ノ時、マデ此、收容所ニ居タ。一九四五年八月  
十九日即チ日本降伏後日本軍ハ赤十字カウ来タト言ツテ多額ノ金ヲ出タ。  
此ノ金ヲ彼等ハ相宿曹長ノ所持ツテ居ル事ハ疑フ餘地ナシ。然レモ我々ハ、  
金が日本軍ノ手中ニアルコト信ズル理由ガアリタタ。私ハ又他ノ將校ハ度々  
要求シタレドモ彼等ハ其ノ一度モ修繕ニ支給スル事ヲシナカッタ。我々ハ  
鹽漬菜ヤ余分ノ食物ヲ購入スルニ此金ハ非常ニ入用アリタタ。

Doc 5788

No 3

「ミ・ダニ・ミヤ」(署名)

前連「ミ・ダニ・ミヤ」三條り本一九四六年一月二日

「エストミスター」中「スプリング・ガーデン」六番地

ニ於テ宣誓長セモナリ。

余ノ面立前ニ於テ

英國陸軍省法務總監部法務官

少佐「アー・ジードセル・ウネーメル」(署名)

之ハ口供書原文ノ真正ナル事ヲ事ヲ證明スル

法務總監部法務官

大尉「スクリュー」(署名)

FILED  
RETURN TO  
COPY  
1361